

スペック今津

法人理念

私たちちは、誰もが自分らしく、いきいきと暮らせる社会の実現を目指します。

すべての人が住みやすい社会の実現

私たちちは、障がいのある人もない人も、誰もが安心して暮らせる、インクルーシブな社会の実現を目指します。地域社会との連携を深め、多様な人々が互いに支え合い、尊重し合える環境づくりに貢献します。

一人ひとりの自己実現

私たちちは、子どもたちの可能性を信じ、個性を尊重し、それぞれの「できた！」を応援します。一人ひとりの興味や能力に合わせた支援を提供し、自己肯定感を育み、未来に向かって力強く歩んでいけるようサポートします。

協働して取り組む

私たちちは、子どもたち、保護者、地域の方々、そしてスタッフ一人ひとりが、互いに協力し、支え合いながら、より良い支援を提供していきます。開かれたコミュニケーションを大切にし、それぞれの専門性を活かしながら、チームとして子どもたちの成長を支えます。

私たちちは、子どもたちの笑顔と、地域社会の未来のために、情熱と誠意をもって活動してまいります。

営業時間 平日 14:00～17:00

休日 10:00～16:00

送迎実施しています。

放課後等デイサービス支援プログラム

作成年月日 令和7年3月20日

支援方針

障がいの種別に関わらず、子どもの心身の健康と、希望する生活の実現を最優先に考えます。

支援の重点:

個別性の重視:

- ・子どもの多様な側面を捉え、個々のニーズに合わせた支援を行います。
- ・障がいだけでなく、その人らしさに焦点を当て、個性を尊重します。

コミュニケーションと理解:

- ・子どもの思いを丁寧に聞き取り、ニーズの質を高めます。
- ・子どもと同じ視点に立ち、共感的な理解に努めます。
- ・わかりやすいコミュニケーションを心がけます。

目標設定と支援計画:

- ・子どもの夢や希望に基づいた目標を設定し、実現に向けた支援を行います。
- ・子ども、保護者、職員が協力し、支援計画を作成・実行します。

地域との連携:

- ・地域社会との連携を強化し、地域全体で利用者を支える体制を構築します。
- ・地域社会のネットワークを活用し、地域で解決する力を目指します。

専門性と柔軟性:

- ・職員は専門性を高め、多様なニーズに対応できる能力を養います。
- ・固定観念にとらわれず、柔軟な視点で支援方法を見直します。

協働関係の構築:

- ・子ども、保護者、職員、地域社会との協働関係を築き、チームとして支援を行います。

全体像:

この支援方針は、子どもの個別性を尊重し、地域社会との連携を重視しながら、専門的な支援を提供することを目指しています。

認知・行動

- ・スケジュール、回数などを意識した活動することで、時間や数などの概念の形成を図ります。
- ・日々の係活動（時間係、運動係など）によって、自分の役割を認識して行動できるようになります。
- ・順番に応じて、「待つ」や「準備する」など切り替えが必要な場面を経験し、自分が主体となって行動できるように支援します。

運動・感覚

- ・ボディイメージがつかめるようにプログラムを行います。
- ・身体の大きなコントロール、小さなコントロールができるようにします。
- ・視覚、聴覚など身体の協応動作の向上のためのプログラムを行います。

自分自身

（経験）

- 季節を感じるイベント 正月遊び、節分etc
- 作って食べる お雑煮、フルーツポンチ、クッキーetc
- 外に出る 公園、博物館、体育館、電車etc

健康・生活

- ・1日のスケジュールに応じて、プログラムの前後などに水分補給、排泄、身だしなみを整えるなどの習慣をつけるようにします。
- ・活動中などに、暑い、寒いに応じて、子どもが主体となって、衣服調節や室温調節をする機会を作ります。

言語・コミュニケーション

- ・プログラムの内容に応じて、スタッフや子ども同士のコミュニケーションをとる機会を増やします。
- ・相手を意識したコミュニケーション（伝える、きくなど人に頼ること）に着目した活動を行います。

ライフスキルトレーニング

- 身だしなみ 健康管理
- お金の使い方
- いろいろなマナー

コグトレ

- (身体面) 自分の身体物と人

- (学習面) みる きく 想像する

人間関係・社会性

- ・自分の気持ちがわかり、コントロールできるように「きく」支援を行います。
- ・プログラムと個人の特性に応じて、個別、集団で活動できるように工夫した支援を行います。

自分の周り

(家族)

- ・送迎時、定期面談での相談援助
- ・支援アプリを利用していつでも連絡が取りやすい環境整備
- ・就労等による延長支援
- ・保護者会の開催

(移行)

- ・放課後児童クラブとの連携
- ・ライフステージの移行時の連携

支援プログラム

自立するための
チャレンジする

子どもが主体となる
社会経験のための

運動プログラム

- 手先を使った運動
- 身体全体を使った運動

遊び

- 動く、考える、勝負
- 話す、チームワーク

（職員）

- ・障害特性に応じた配慮のためのインプット・アウトプット研修、外部研修受講
- ・ビジネスチャットツールを用いた風通しの良い環境etc

（地域）

- ・民生委員、児童委員との連携
- ・自治体設置の各センターとの情報共有
- ・地域ボランティアや大学生との交流イベン